



進路だより コンパス Compass

種子島中央高校 進路指導部

No.1

(通号 第121号)

令和5年 12月 22日

平成21年4月27日 第1号発行

～2学期を振り返ってみよう～

長かった2学期も本日が最終日になりました。学校行事が多い2学期の印象がありますが、進路に関わる行事は、進路出発式や2年生のインターンシップ、学びの基礎診断が行われました。

進路出発式は、就職選考開始直前の9月12日に実施され、校長先生激励の言葉を頂き、また1・2年生からのエールも頂き、受験に臨む3年生に対して勇気を与えてくれました。就職希望者の徳永沙門さん(3年3組)と進学希望者の中村亮太さん(3年1組)が力強い決意を述べ、3年生が一丸となって受験に向かう気風が醸成されました。あれから3か月が経ち、現在の進路決定率は86.6%(12月20日現在)となっています。(下表参照)

学 科	国公立大学	私立大学	公立短大	私立短大	専門学校	公共職業訓練校	公務員	一般企業	その他	合計
普 通	2	9	0	3	14	2	0	1	9	40
情報処理	0	1	1	3	9	0	1	10	2	27
合 計	2	10	1	6	23	2	1	11	11	67

新年が明けると、3年生はいよいよ大学入学共通テスト(令和6年1月13日・14日実施)を迎えます。大学受験を目指す生徒の多くは、これからが本番になります。進路出発式の際に感じた思いや気持ちを再度思い出し、そして今まで取り組んできた自分を信じて挑んでほしいと思います。「努力は裏切らない。」とよく言われます。最後の最後まで粘り強く努力し続け、最後に「努力は実る。」ことを証明してください。昨年度も、国公立大学の後期日程選抜までチャレンジし、目標を勝ち取った先輩がいました。皆さんの頑張りとお挑戦が1・2年生に勇気と希望を与えます。職員および在校生全員で皆さんを応援しています。



3年生を激励する様子(校長先生)



応援団によるエール(2年応援団)



就職者代表決意表明(徳永さん)



進学者代表決意表明(中村さん)

インターンシップは3日間(10月11日～13日)の日程で実施されました。インターンシップの目的は、①「就業の喜びと厳しさを感じ、職業観や勤労観を養う」②「自己の職業適性を確認し、今後の職業選択に役立てる」ということでした。2年生の皆さん、それから2か月が経過しましたが、インターンシップで感じたことを、自らの進路目標達成のための取り組みに生かされていますか。来年度の進路決定をスムーズに進めるためにも、3学期の取り組みが大変重要になります。冬休みに再度振り返り、早めの取り組みをスタートさせることを願います。

学びの基礎診断は1学期にも実施されました。1・2年生は2回目となった2学期の結果を受けて、1学期との比較を通して、自らの学習力等に関する振り返りが出来たのではないのでしょうか。

今年度、本校は大きな変革が多数あり、生徒の皆さんも少なからず戸惑いや影響を受けたことだと思います。特に、朝補習および土曜講座の廃止や定期考査に代わる単元テストの実施など、従来の受動的学習から能動的学習へと意識を変える必要性に迫られたことでしょう。1学期始業式で「覚悟」について話をしました。「覚悟」を持って取り組むとは、従来型学習から脱却して、「主体的」に取り組む事を意味します。1・2年生については、タブレットが使用できるようになり、スタサプなどの教材にも取り組める環境が整いました。

7月に実施した学校評価の生徒結果では、「授業に集中して取り組み、課された課題等はきちんと期限を守って提出できるように毎日宅習をしている。」との問いに、88%の生徒が肯定的に捉えていました。前年度と比較して7%も上昇していました。これは皆さんが自らの学習に向き合い、まぎれもなく「主体的」に取り組んでいることの現れだと考えます。

2学期始業式には、夏季休業中に考えた事を実践してほしいと伝えました。いくら反省していても、具体的な行動に移さない限り変化は望めないと思います。ですから、何はともあれ「やってみよう。」とよびかけました。2学期末にあたり、皆さんは大きく成長したのではないのでしょうか。学校評価の数字もそのことを裏付けていると思います。

夏季休業から2学期に行われた、大学等出前授業やその他の講演などに参加して、様々な思いを抱いたことでしょう。その思いを新年にどう繋げるのか、冬季休業中にじっくり考えてみましょう。

	テーマ	講師	大学名等
①	「ふるさと100年フードを学ぼう！」	川野美智代 (准教授)	鹿児島純心大学 看護栄養学部健康栄養学科
②	「世界史 はてな つまみ食い」	加藤 一弘 (教授)	鹿児島国際大学 経済学部経済学科
③	「スポーツを支えるトレーナーとスポーツ科学」	中井 雄貴 (准教授)	第一工科大学 工学部機械システム工学科
④	「“やる気”の科学」	野上 真 (教授)	志学館大学 人間関係学部心理臨床学科

{生徒感想文}

①

②

日本の伝統的な食事は栄養のバランスのみならず、季節の移ろいを感じられたり年中行事とも関わりがあり、次世代にも残していく必要があると感じた。(1年)

経済学と歴史に関わりがあることを知り驚いた。銑鉄・錬鉄・鋼鉄の違いや人間と鉄の深い関わりを経済学の視点から知ることができた。(1年)



③

④

運動機能を高めるためのストレッチは、方法を間違えると逆効果になることを知った。(2年) トレーナーの仕事内容は患者さんとの関わり方により、多くの役割があることを知ることが出来た (3年)

心理学は複雑で難しいと思っていたが、人間の心を簡単に説明するようなものだと知り驚いた。勉強において、やる気がなくても、やってみることで気持ちが前向きになることなど、勉強になった。(2年)